

いよいよ20年を振り返る準備が！

●春日部地区浦高会の20年を振り返って！

先週木曜日に「春日部地区浦高会20周年記念誌」の作成について、これまで還暦(60歳)、古希(70歳)の記念と2度に亘って同期で記念誌を出されていらっしゃる鳥井・春日部地区浦高会副会長(11回卒)と相談させていただきました。

10月に考えたスケジュール通りに進んでいます。

【作成スケジュール】

- ◇ 9月 総会にて承認済み、編集委員：3人
- ◇ 10月 編集委員にての企画会議
- ◇ 11月 原稿募集(締切：3月末)
- ◇ 12月 幹事会にて経過報告
- ◇ 1月 座談会
- ◇ 2月 賀詞交歓会にて再度の原稿募集
- ◇ 3月～4月 原稿のベタ打ち
- ◇ 5月 文字入力業者へデータ渡し
- ◇ 6月 校正
- ◇ 8月 印刷
- ◇ 9月6日 20周年記念総会にて配布

時々反省するのですが、何で毎回、こうした面倒なことを引き受けてしまうのでしょうか？ いや、正確には自ら進んで「記念誌を作ろう」と言い出してしてしまうのでしょうか？

実は、2月を目途に浦高同期の記念誌づくりも並行してやっています。こちらは約25人からの原稿が集まり、第1段は昨年9月の同期会で手刷りで配布したのですが、もう少し手を入れるとともに原稿を増やして印刷したいと思っているのですが、なかなか上手くいきません。やはり、原稿を集めることが一番苦しいようです。

さて現在、私は2月2日(日)の座談会に向けてシナリオと年表づくりを進めており、座談会では記念誌に載せるタイトルを意識して次のようなテーマで、創立当時を知る顧問、正副会長、監事の皆さんからお話を伺おうと思っています。もちろん私も、当時45歳でばりばりと下働きをしていましたが…。

1. 春日部地区浦高会の誕生秘話

春日部地区浦高会が設立されたのが2001年9月1日総会でした。どのような経緯で設立に至ったのか、設立に向けた準備や苦労など…

2. 春日部地区浦高会の歩み

春日部地区浦高会では3代の会長がおり、初代石井会長(中48)が4年間、2代三輪会長(高15)が11年間、現在の根本会長(高16)が4年間務められて現在19年目を歩んでいます…

3. これからの春日部地区浦高会へ

次の時代への希望・要望等を込めて…

そして、この20年の年表をまとめると…

1. 石井会長の時代(2001年度～2004年度)

◆総会、賀詞交歓会、ゴルフコンペでの会員間の親睦を築いた時代

2. 三輪会長の時代(2005年度～2015年度)

◆前半は会員間の親睦と絆を強くしていくための活動を始めた時代

- 2005年度：2月鬼怒川一泊旅行、
- 2006年度：5月初夏の春日部・野田名所めぐり
- 2007年度：9月渡辺克也氏オーボエ演奏会
- 2008年度：6月枝豆旬宴会
- 2009年度：10月坂東の旅、5月東京リバークルーズ

◆後半の地域貢献活動に取り組み始めた時代

- 2010年度：9月記念講演、10月麗しの杜植樹祭
- 2011年度：2月野鳥観察会、4月東京リバークルーズ

◆久喜麗和会との合同小旅行を始めた時代

- 2012年度：4月久喜麗和会合同「川越の旅」
- 2013年度：3月久喜麗和会合同「古河の旅」

◆15周年「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業

- 2014年度：10月チャペルコンサート、6月「第1回 音楽の都ウィーンからの贈り物コンサート」
- 2015年度：10月富田氏学校への出張講座、4月久喜麗和会合同「野田の旅」

◆若手幹事の活用

- 2015年の「第7回 地域職域同窓会責任者会議」において春日部地区浦高会総会の活動を報告

3. 根本会長の時代(2016年度～2019年度)

◆更なる地域貢献と発展の時代

- 2016年度：10月「第2回音楽の都ウィーンからの贈り物コンサート」、出張講座、4月「久喜の旅」
- 2017年度：10月「第3回 音楽の都ウィーンからの贈り物コンサート」、出張講座、5月「このとりの郷・野田の旅」
- 2018年度：9月「第4回 音楽の都ウィーンからの贈り物 in 野田コンサート」、5月「春日部の旅」
- 2019年度：10月富田氏出張講座、5月「関宿の旅」

年表は10ページに亘るボリュームになりましたが、私にとってはどれもこれも楽しいイベントです。正副会長が立てた大きな方針、「会員間の親睦をもっと強くしていこう！」「春日部地区に浦高会ありと言われるように社会貢献の策を考えよう！お金はいろいろな補助事業を活用しよう！」「若い同窓生が春日部地区浦高会は面白そうだから入ってみよう、働いてみようと思えるような会にしよう！」「せっかく富田さんが春日部市内でコンサートを開きたいとおっしゃっているのだから、春日部地区浦高会にしかできないような手作り地域の方々が喜んでもらえるようなイベントにしよう！」の実現に向けて企画書を練り、シナリオを描いて実に良い勉強をさせていただきました。この体験をどう伝えていきたいと思います。